

「子どもを守るネットワーク」事業 子どもネットニュース



VOL. 149

特別インタビュー

子どもを守るネットワーク対策委員会 佐藤淳二委員

(全自交労連 京王自動車労働組合 副執行委員長)



子どもを守るネットワークの取り組みを、現場ではどのように推進しているのかインタビューを行いました。今回は子どもを守るネットワーク対策委員である京王自動車労働組合の佐藤副執行委員長に、活動状況や今後の目標を伺いました。

■子どもを守るネットワークの取り組みの現状を教えてください。

京王自動車のタクシーは京王線と中央線、青梅線、五日市線沿いで、約474台のタクシーが24時間365日動いています。乗務員が子どもに限らず、不審者やストーカーなどの不審な行動を見かけたら注視するよう呼びかけています。今までに子どもを保護した事例はありませんが、2年前に女性が暗闇を歩いている後ろを、不審者がストーカー行為をしているのに気づき、女性を保護した事例がありました。また、タクシーには無線機がついているため、警察からの要請で情報提供などもしています。

■この活動について会社側の反応はありますか？

多摩の京王自動車（タクシー）は、元々地元密着型の営業のため、子どもネット活動に参画することに対してはすぐに理解と協力を得ることができました。ステッカー貼りに関しては、組合員だけで貼り替え作業をするだけでなく、会社側の車両整備員の方々も協力的に取り組んでいただいています。

■この活動に取り組まれてからの苦労はありましたか？

苦労は特にはありません。乗務員・組合員が地元で生活している人が大半のため、子どもネットへの理解は十分に得られています。

■新ステッカーに対する周囲の反応はありますか？

現場に行く機会がないため周囲の反応はわかりませんが、新デザインなのでまだまだ認知度は低いと思われます。

■今後、「子どもを守るネットワーク」の活動をどのように展開していきたいですか？一言お願い致します！

「子どもネット」の認知度が「ピーポくん」や「子ども110番」と同じくらいになってほしいと思います。一意見として元々の趣旨とは変わってしまうかもしれませんが、組合員の方々の家などに「子どもネット」のステッカーやポスターなどの掲示に協力していただければ、もっと認知度が高まるのではないかと思います。



佐藤副執行委員長、ご協力をありがとうございました！

「子どもを守るネットワーク」事務局

〒190-0012 立川市曙町2-15-20-5F 連合三多摩ブロック地協内